

コルネッロ・デイ・タッソ (Cornello dei Tasso)

久しぶりにベルガモに行きました。ベルガモの北 35 キロにある街、カメラータの直ぐ近くのコルネッロという村を訪ねるためです。カメラータは人口 600 人の小さな田舎街ですが、その傍のコルネッロは、人口わずか 45 人という、本当に小さな村です。こんな小さな村なのですが、「最も美しい村」と「小さな街・村」の両方で推薦されているのです。この村の歴史を知らない限りは、何故、こんな小さな村が推薦されているのか理解出来ません。

この村の脇をブレンボ川が流れています。ブレンボ川は、ピアッツァ・ブレンバーナから始まり、下流はアッダ川に合流します。この川沿いの地域はヴァル・ブレンバーナ（ブレンバーナ溪谷）と呼ばれ、北にあるサンモリッツまで繋がるヴァル・テッリーナに繋がり、更に、スイスのグリゾン地方へと繋がっています。要するに、ヴァル・ブレンバーナは北イタリアからスイス・オーストリアへの交易通路だったのです。

11,2 世紀から 15 世紀まで、このヴァル・ブレンバーナには、**Via Mercatorum** という交易路があり、この交易路はこのコルネッロ村を通過していました。従って、この時代、コルネッロは交易の中継点として栄え、週に 2 度の市が出ていたそうです。また、コルネッロの領主であったタッソ家は、この交易路を利用した郵便会社を営んでいて、14,15 世紀には全ヨーロッパに支店をもち、パプスブルグ家の加護のもと、営業範疇を全ヨーロッパに拡大して繁栄していました。ところが、15 世紀になると、このヴァル・ブレンバーナに新しい交易路が出来てしまいます。新しい交易路、**Via Priula** は岩山を砕いて最短距離のルートで造られ、しかも、コルネッロ村を通過しなかったのです。従って、コルネッロ村には誰一人として立ち寄ることがなくなり、急激に衰退してしまったのです。その衰退が余りに急速であったために、村は、15 世紀で時間が止まったように、その時代のまま取り残されてしまいました。それが、今日でもこうして中世の香りを楽しむことが出来る所以なのです。

ベルガモからヴァル・ブレンバーナ沿いに走るバスを約 1 時間乗ると、丘の上の街、カメラータの真下にある川沿いの停留所に到着します。そこから、コルネッロ村は徒歩で行くしかありません。しかも、コルネッロ村も同様に丘の上にあるので、丘を登らなくてははいけません。約 1 キロの登り道なのですが、カメラータはともかく、人口 45 人のコルネッロ村への道筋に標識などあるわけがありません。但し、小さな Museo と書いてある標識がありましたので、それに違いないと判断し、それを頼りに丘を登りました。歩くこと約 15 分で、思ったとおりコルネッロ村に到着です。ひっそりとしたその村には、微かに 45 人の住民の息遣いが感じられます。この時間はまだ雲り空でしたが、徐々に回復傾向にあり、私の他にも 1 組のイタリア人の団体客がここを訪れていました。





この村は、ブレンボ川を望む崖の上に建つ 11,12 世紀の城壁で囲まれた村です。その時代には、街道を崖の上から見通しながら、商人の交易の中継地点として繁栄していたのでしょう。その証が、この村の一番高いところに位置する教会です。小さな村にふさわしい瓦屋根の小さなロマネスク建築の教会ですが、中に入ると、ロマネスク建築で窓の少ない両壁と祭壇の裏の壁面には、この小さな教会にはふさわしくないほどの立派なフレスコ画を見ることが出来ます。フレスコ画はつい最近まで管理がされていなかったのでしょうか、かなりの傷みがありますが、その傷み具合がその古さの証となり、なおさら、鑑賞している人の郷愁を誘います。



道路標識には Museo とあったのですが、村の中にある小さな Museo は鍵がかかって開いていません。

しかし、この村全体が中世の時代を展示する Museo みたいなものです。10分もあれば歩き回られほどの小さな村ですが、まるで、映画のセットの中を歩いているように、21世紀のものは、ところどころに見える電線(でも、それほど目立ちません)以外は何一つ目にする事が出来ません。それに、この村に入る道は歩行者専用の幅しかありませんので、村の中には、車も皆無です。また、薪があちこちで積み上げられていて、冬場の暖房はまだ薪に頼っていることがわかります。



村の入口にある石造りの一塊の建物は、半分くらいの住民が住んでいるようです。斜面に建っているその建物は、4階建てになっています。1階部分は城壁にあたります。2階部分には各家の入口や店となっていて、石造りのポルチコに面しています。3階部分が住居となり、4階部分には修道院にあるポルチコの通路のように見えます。この4階部分がちょうどこの村の教会の高さとなっていますので、そこに繋がっているのかもしれませんが。村の道はこの建物の2階部分にあたり、まるで建物の中を歩くような不思議な気持ちになります。それに、各家の入口や店に面した薄暗い石造りのポルチコの中を歩くと、まるで中世です。



石のポルチコを潜り抜けて10メートルも歩くと城壁にぶつかります。小さな村はそこでもう終わりです。その間には、一塊の建物とは別に数件の家が立ち並んでいますが、その家々には、少しだけ裕福な住民が住んでいるのでしょう。城壁の脇には、城壁と一体となったタツソ家の宮殿跡があります。もう、宮殿そのものは跡形もなく、わずかに残るアーチが夢の跡のような趣を感じさせます。城壁と宮殿跡は、ごく最近に、ベルガモ県による保存が始まったそうです。



どんなにゆっくり歩いても1時間もあれば、この小さな村の観光は終わってしまいますが、雪解け水を湛えたブレンボ川と兩岸の新緑、周りの山々と点在する小さな村々の景色は、更に気持ちを癒してくれます。村の観光の後には、この自然の中を散策しました。



この日は、Benvenuti Alpini (Welcome to Alpen) というお祭りで、朝からベルガモの街は人でごった返していました。アルペニストが被るような鳥の羽の付いた特徴のある帽子を大勢の人達が被っています。実は、ミラノ中央駅から、この帽子を被った団体がいっぱいベルガモ行きの列車に乗っていました。ラッキーなことに、このお祭りに関係しているのでしょうか、この日は、ベルガモからカメラータ・コルネッロ及びピアッツァ・ブレンバーナ方面の(多分、アルプス方面に行く)バスは無

料でした。きっと、アルピニストへのサービスなのでしょう。

このバスはヴァル・ブレンバーナの自然の中を走るのですが、途中の街や村を通りながら北へ、ブレンボ川の上流へと進んでいきます。途中の街、サン・ペッレリーノには温泉があり、伝統を感じさせる大きくて古いグランド・ホテルがありました。また、コルネッロの一つ手前の街、サン・ジョヴァンニ・ビアンコには、古い中世の橋と大きな教会がありました。このような周りの自然と通り過ぎる街に興味深く見ていると、約1時間の道程は全く長く感じることはありませんでした。

行くときに見逃した景色・街並を帰りには見逃さないように、帰りのバスでも、窓からの景観に見入っていました。ベルガモに戻るとお祭りは最高潮に達していて、このアルペニストの帽子を被った人たちと観光客で大変な賑わいでした。この日は、ベルガモ・バッサからアルタに通じる大通りは歩行者天国となっていて、屋台が並んでいました。それだけでなくも楽天的なイタリア人が、この日は更に楽天的になっています。このようなイタリア人を見ていますと、お祭りの意味もよく理解していないこちらのほうも、この中に一緒にいるだけでお楽しくなってきました。



ミラノからベルガモまでは、もう、誰もが何度か行って、既に知っていることと思いますが、一応、書いておきます。ミラノ中央駅から1時間間隔で所要時間45分(4.2ユーロ)です。ポルタ・ガリバルディからもベルガモ行きが出ています。こちらのほうは20-40分間隔であり、所要時間はちょっと長く1時間強ですが、料金は3.6ユーロと安くなっています。ベルガモからカメラータ・コルネッロまでは、ベルガモ駅を出て直ぐ右手にあるSABバスのStazioneから、1時間間隔(日曜日は2時間間隔くらいです)で出ているピアツァ・ブレンバーナ行きのバスに乗ります。カメラータ・コルネッロまでは1時間弱で到着です。この日は料金が無料でしたので、チケットの金額(多分3ユーロほど)はわかりませんが、チケットは、このSAB Stazioneのチケット売り場で購入することができます。ここで、いつものように往復のチケットを購入しておくことをお勧めします。

さすがにベルガモです。チケット売り場の女性は英語が上手で、この日は、購入するときに無料であることを英語で教えてくれました。